

郷土を知り、郷土を愛する

志木市 歴史とんぼ

執筆・協力 志木のまち案内人の会

第50回 大塚の神明神社

東武東上線柳瀬川駅東口を出て線路沿いに歩いていくと存在する大塚の神明神社の本社は、三重県伊勢市に鎮座する伊勢神宮で、祭神は天照大神になります。

伊勢神宮は皇大神宮（内宮）と豊受大神宮（外宮）の総称となりますが、一般に皇大神宮を分祀したものを「神明社」と呼び、全国で1万5,000社を数えるといわれています。



今から約400年前の元和2年（1616）に大塚村に住んでいた山本家・山本九郎左衛門が、伊勢信仰のために自分の宅地の一部に伊勢神宮を分祀し、「神明社」として祭祀したのが「大塚の神明神社」創建の起源だったとされています。それから約200年が経ち、文化文政期（19世紀初頭）に尾崎家・尾崎吉五郎が山本家から宅地と社を買いました。明治9年（1876）には尾崎家から字大塚地区へ委譲され、その後、「全国神社合併令」によって明治41年（1908）に大塚の神明神社は柏町にある館氷川神社に合併されましたが、字大塚の地には氏子が55戸も存在していたこともあり、昭和5年（1930）頃まで尾崎家で祭典を行っていました。

大塚の神明神社の大きな特徴は2つの鳥居が存在していることです。神社入り口の鳥居は、全体的に直線が主体となり一番上の「笠木」の両端が反り上がっていない形状の「神明鳥居」です。本社の左側には、伏見稲荷神社をご神体とする「明神鳥居」があり、神明鳥居とは異なり、笠木の両端が反っている形状の鳥居です。

大正初期の東武鉄道路線工事によって、現在地に移設されましたが、大塚地区の守護神として現在まで祀られています。



▲神明鳥居



▲明神鳥居



志木に実る色とりどりの市民力！

今年も志木市の文化・芸術の秋がやってきました。11月2～4日は、志木市美術展覧会、志木市民文化祭が開催され、市役所は美術館に、総合福祉センターは芸能の舞台へとその姿を変えます。市内で活動されている芸術家による日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の6種目の大作や、茶道・華道・郷土資料の発表などが、市役所のすべてのフロアを彩るとともに、総合福祉センターでは歌・舞踊・演奏などの芸能が披露されるなど、色とりどりの豊かな市民力が華開く3日間となります。ぜひ、会場へ足を運んでいただき、芸術の秋をゆったりとお楽しみください。

また、秋の新たな風物詩となる、市民主体のイベントの企画も進行中です。昨年の10月に市民と市職員が協働で立ち上げた検討委員会において、「後世に残る志木市の目玉イベント」と銘打たれた事業の実施に向けた議論が熱心に進められていましたが、先月10月1日に、検討結果のご報告をいただきました。今後は、来年10月の開催を目指し、志木が好きで、志木を盛り上げようと集ま

っていただいた18人の市民と12人の市職員で構成する実行委員会を組織し、いろは親水公園を舞台とする、キャンセルミネーションやジャズ、アコースティック音楽など、光と音楽をテーマとした、これまでとはひと味違うイベントの準備を進めていきますので、ぜひ、ご期待ください。

さて、現在、市では、志木市の最上位計画である「志木市将来ビジョン」の策定を進めています。この計画は10年に1度策定する、市のまちづくりの方向性を描く重要な指針であることから、策定にあたっては、市民の皆さんの声を反映することが重要です。こうしたことから、10月に無作為抽出による市民3,000人と、子育て中の1,500世帯を対象とした市民意識調査を実施したほか、11月には市民ワークショップを開催し、ご意見を幅広くお伺いする予定です。市民意識調査にご協力いただきました皆さんには感謝を申し上げますとともに、市民ワークショップにご参加いただく皆さんには、志木市の明るい未来を思い描いていただき、さまざまな視点からのアイデアをお聴かせいただけることを楽しみにしています。

今年は、地域コミュニティの現状をきめ細かに聴き取るため、本市のまちづくりにご協力をいただいている町内会の会長にお時間を頂き、1対1での対話を進めているところでもあります。志木市が選ばれるまちとして発展していくためには、まずは、今、住んでいる皆さんの地域課題を確認しながら、その市民力を十分に生かせるまちづくりを進めることが重要です。志木市の10年後を、そしてその先も見据えながら、志木市の明るい今と未来を市民76,200人とともに形づくっていきます。